

2015年4月19日「礼拝の恩恵」

< 聖書箇所 > 「ローマ人への手紙 12章 1~2節」

兄弟たちよ。そういうわけで、神のあわれみによってあなたがたに勧める。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物としてささげなさい。それが、あなたがたのなすべき霊的な礼拝である。あなたがたは、この世と妥協してはならない。むしろ、心を新たにすることによって、造りかえられ、何が神の御旨であるか、何が善であって、神に喜ばれ、かつ全きことであるかを、わきまえ知るべきである。

< 説教抜粋 > 「礼拝の恩恵」

今日の説教の題名は「礼拝の恩恵」です。聖書の箇所は、ローマ人への手紙 2章 1節~2節です。今日は特に、「生きた、聖なる供え物としてささげなさい。」というところと、「心を新たにすることによって、造りかえられ」をテーマとして、共に考えてみたいと思います。

私たちは、良好な人間関係のなかに、幸せを感じます。また、それは、私たちが成長する場でもあります。人間関係というのは、人生に大きな影響を与えます。特に、青年時代に、どんな人と交わるのかで、その人の方向性が決定される場合があります。

それでは、私たちが人から受け入れられることと、私たちが人を受け入れることのどちらが大切でしょうか。無論、これは両方とも大事です。それでは、この二つのどちらが簡単でしょうか。その答えは、おそらく、受け入れる方だと思います。

なぜならば、人を受け入れることは、自分の努力によってできるからです。逆に、相手に対して自分を受け入れさせるように強要することは誰にもできません。受け入れる器が広がれば広がるほど、私たちは成長することができます。

つまり、人を愛そうと思えば、その器を広げなければならないのです。相手の人格を尊重するということは、相手の言葉や意図を尊重することでもあります。そして、場合によっては、相手の態度や行動、言葉が、私の人格に影響をあたえることにもなるのです。

つまり、人との交わりには、自分の変化を受け入れる勇気が伴うということです。逆に、私たちの言葉や行動が、周囲に影響を与える場合もあります。「兄弟たちよ。そういうわけで、神のあわれみによってあなたがたに勧める。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物としてささげなさい。」。

私たちは今日、礼拝に参加しています。礼拝の場は、私の心と体を神様に供えて行く時間です。しかし、供えることそのものに意味があるわけではありません。供えることを通じ、そこに神様を迎えて行かねばならないのです。それによって、私たちは変化し、生まれかわるのです。「それが、あなたがたのなすべき霊的な礼拝である。あなたがたは、この世と妥協してはならない。むしろ、心を新たにすることによって、造りかえられ、何が神の御旨であるか、何が善であって、神に喜ばれ、かつ全きことであるかを、わきまえ知るべきである。」。

世俗的な価値観で生きてきた私たちは、神様の愛によって、神様の美しい作品としてつくられるのです。愛なる神様であるということ、心の奥深くで迎えることが必要です。今日の説教の題名は、「礼拝の恩恵」です。私たちにとってのなによりの恩恵は、私たちが素晴らしく生まれかわることなのではないでしょうか。